



学びと誇りが実感できるまち

～家族一緒に読書の習慣化を！～

令和5年4月号

庄原市教育委員会
教育長 牧原 明人

遠足のおくれて走りてつながりし (高浜虚子)

新年度が始まりました。昨年度を振り返り、また少し先のことを考えながら、本年度、「やらねばならないこと」「やりたいこと」「できること」をよくよく検討し、新たな目標を立て、一步ずつ前に進みましょう。

もう一步。いかなる時も自分は思う。

もう一步。今が一番大事な時だ。もう一步。

(作家:武者小路実篤)

最初に大変うれしい報告です。令和5年度子供の読書活動「優秀実践校」に庄原小学校が、また「優秀団体」にダンボのおはなしの会(西城町)が選ばれ、両者ともに文部科学大臣表彰を受けることになりました。おめでとうございます。

学校やボランティア団体で取り組んでいる積極的な読書活動(例:絵本の読み語りやポップづくり、ブックトーク、子供司書の育成、図書室の環境づくり、市立図書館との交流など)が高く評価され認められたものです。

さて、今回は、この読書活動をもっと推進していくために「家族一緒に読書を楽しみましょう」ということについてです。

「絵本と歩む」を6年間新聞連載されていた国立音楽大学教授・同付属幼稚園 林 浩子 園長の話です。幼い頃、毎月1冊届けられる絵本をお父さんやお母さんの膝の上で一緒に読むことが何よりも好きだったことに触れ、次のことを述べられています。

一緒に読んだ思い出は、今でも膝のぬくもりや柔らかな声、息づかいも覚えていること、また耳で聞いた言葉と本の絵を合わせる経験の積み重ねが、やがて自分の頭の中で絵を描き、イメージを膨らませるようになったこと、言葉の世界の面白さを知ったことで、小学生になると夢中になって本を読むようになったこと。

さらに、絵本は、自分を取り巻く世界の驚きや不思議さ、面白さにあふれており、それを知ることの楽しさを教えてくれたこと、また外国の本の色使いに魅了され、遠い国にあこがれを抱いたこと、昔話では人間のやさしさや正しさと同時に醜さや怖さを、科学絵本では命への畏れを感じたことなども紹介されていました。

こうした想像の世界で存分に遊んだことで、つらく悲しい時も想像力によって自分の気持ちを整える術を身に付けていったそうです。

是非、子供たちと一緒に家族で本を読む時間をつくっていただきたいです。子供の言葉や反応から改めて子供の世界の豊かさも感じることができます。10分でも20分でも子供たちと一緒に本の世界に入ってみませんか。